

所報 2025

おおすみ



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家



はじめに

国立青少年教育振興機構は「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、青少年の体験が不足している状況を踏まえ、全国に28ある施設がそれぞれの立地・環境を活用した体験活動の機会と場を提供しています。

当国立大隅青少年自然の家「おおすみくん家^ち」は、背後に高隈山系、眼下に錦江湾と豊かな自然環境に囲まれたところに立地しており、その自然資源を活かし海浜活動、ハイキング、自然工作、野外炊事等のプログラムを提供しています。

当施設の利用については、収支状況の改善の一環として、令和6年12月から令和7年3月までの期間について、一時休館としました。その一方で令和6年12月末と令和7年2月～3月中旬の期間は、大規模団体及び大学のスポーツ合宿の利用や、令和7年2月の通学合宿の利用は、一定基準を満たしているため通常利用で対応できました。令和6年度は、小中学校の宿泊学習や青少年団体の活動、高校・大学の合宿、企業研修等日帰りも合わせ約4万2千人の方々にご利用いただきましたが、前年度を上回ることができませんでした（令和5年度は約4万6千人）。

また、当施設が主催して行う教育事業については、一時休館期間と重なった2事業を中止しましたが、青少年や家族を対象とした体験活動事業や指導者等の研修に関するものなど計13事業を実施しました。

中でも看板事業で長期自然体験活動の「海からのメッセージ」では、5泊6日の行程に参加した子どもたち18名と鹿屋体育大学海洋スポーツセンター、法人ボランティア及び関係企業団体の皆様のご支援・ご尽力のおかげで3年ぶりにカヌーで錦江湾を横断することができました。そうした中でも長期自然体験活動が生きる力に及ぼす影響や水分補給状況と適正水分摂取量等の貴重な測定データやアンケート調査結果は、長期自然体験の意義及び熱中症対策等安全に長期自然体験活動を行うための事例として広く関係各所に展開したいと考えています。

新規事業としては、持続可能な社会づくりに向けて「防災」をテーマに様々な企業団体、行政等が一堂に介して参加者に防災体験等を提供し、防災意識や関心を高めるとともに機運の醸成を図る「SDGs 防災フェスティバル」に取り組みました。

また、全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿に参加しました高校生が全国第3位の全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長賞を受賞しました。

本報告書はこれら教育事業の実施概要とその成果と課題についてまとめたものです。是非御一読いただき、忌憚のない御意見・御助言等いただければ幸いです。

おわりに、当施設の事業運営に御支援・御協力をいただきました関係機関、関係各位の皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和7年10月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家
所 長 吉 松 純 昭

目 次

はじめに

I	令和6年度教育事業等の実績一覧	1
II	教育事業等の実施状況	
	体験の風をおこそう ロボプロキャンプ	3
	ボランティア養成研修	4
	体験の風をおこそう スポーツキャンプ	5
	自立支援キャンプ事業 おおすみくん家に遊びに来ませんか	7
	地域探究プログラムオリエンテーション合宿	8
	体験の風をおこそう 登山キャンプ	9
	体験の風をおこそう フェスティバル秋 in AMUユ広場	10
	自立支援キャンプ事業 子ども生き生き体験学習	11
	体験の風をおこそう SDGs 防災フェスティバル	12
	体験の風をおこそう おおすみくん家通学合宿	14
	体験の風をおこそう スポーツクライミング教室	16
III	令和6年度における傷病発生状況	17
IV	利用者数・利用団体数の推移	19
V	令和7年度 国立大隅青少年自然の家運営方針	21
VI	令和7年度 教育事業等の計画一覧	28

【別冊】文部科学省委託事業 海からのメッセージ

令和6年度 国立大隅青少年自然の家 教育事業等実績一覧

I 青少年教育に関するモデル的事業

1 実践研究事業(1ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	参加者数(応募者数)
1	文部科学省受託事業 海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。また、実践研究として体験活動の重要性の普及に努める。	【事前研修】 7. 7(日) 日帰り 【事業本番】 7. 23(火)～28(日) <5泊6日>	小学5年生～中学生	18人(20人)

2 地域探究プログラム(1ーウ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	参加者数(応募者数)
2	全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿	地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら見出したりする探究活動を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識を学習する。	7. 13(土)～15(祝月) <2泊3日>	県内高校1・2年生	14人(17人)

II 社会の要請に応える体験活動等事業

1 自然体験や読書活動等に親しむ事業(2ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	参加者数(応募者数)
3	体験活動普及啓発事業 おおすみくん家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身につける。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。	2. 3(月)～2. 21(金) 計3週(全5回) 各回<2泊3日>	小学4～6年生	193人(222人)

2 自己成長や自己実現を図る事業(2ーイ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	参加者数(応募者数)
4	ロボット・プログラミング 体験教室	ロボット操作やプログラミング学習を体験することで、論理的な思考を身につけるとともに、自分の進路や将来を考えるキャリア教育の機会となる。	5. 18(土)～19(日) <1泊2日>	小学5年生～中学生	18人(38人)
5	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	6. 22(土)～23(日) <1泊2日>	中学生部員及び その指導者	1チーム 24人 (応募者同数)
6	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 おおすみくん家 スポーツキャンプ 【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 20(土)～21(日) <1泊2日>	中学生部員及び その指導者	6チーム 118人 (応募者同数)
7	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 27(土)～28(日) <1泊2日>	中学生部員及び その指導者	2チーム 46人 (応募者同数)
8	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 登山キャンプ	登山を通して自然と関わることの素晴らしさや、スポーツとしての登山の楽しさを体験する。山岳での自然体験活動から、自然に生かされていることの体験・理解や、他者より良い関係の構築を学び、子どもたちの生きる力や健やかな心を育む。	11. 2(土)～4(祝月) <2泊3日>	小学5年生～中学生	21人(54人)
9	スポーツクライミング教室	スポーツクライミングを身近に感じてもらうとともに、困難に立ち向かうチャレンジ精神を養う。	①2. 15(土) ②2. 24(月・祝)	子ども・家族	① 11人 ② 14人 (応募者同数)

Ⅲ 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業(3ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	参加者数(応募者数)
10	おおすみくん家に遊びに来ませんか!! ①～⑤	不登校及び不登校傾向のある小・中学生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	① 6. 15(土) ② 8. 24(土) ③ 10. 19(土) ④ 12. 7(土) ⑤ 2. 1(土)	不登校及び不登校傾向のある小・中学生	① 4人 ② 1人 ③ 1人 ④ 1人 ⑤ 4人
11	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験・生活体験等を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。	11. 23(土)～24(日) <1泊2日>	児童養護施設の児童生徒 ※仁風学園	8人

Ⅳ 青少年教育指導者等の養成・資質向上研修

ボランティアの養成・研修事業(5ーイa)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	参加者数(応募者数)
12	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6. 1(土)～2(日) <1泊2日>	高校生以上	宿泊 37人(41人) 日帰り 2人(3人)

Ⅴ 独自事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	参加者数(応募者数)
13	宿泊学習等利用者説明会 ①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実する。	① 4. 11(木) ② 4. 18(木) ③ 8. 22(木)	学校・青少年団体等の引率者	① 20校 27人 ② 13校 15人 ③ 24校 41人
14	フェスティバル秋inAMU広場	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	11月10日(日)	一般	6,568人

令和6年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業

ロボプロキャンプ

- 1 趣 旨 ロボット操作やプログラミング学習を体験することで、論理的な思考を身に付けるとともに、自分の進路や将来を考えるキャリア教育の機会とする。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
(企画・運営：鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会)
- 3 後 援 鹿児島県教育委員会
- 4 期 日 令和6年5月18日(土)～19日(日) 1泊2日
- 5 対 象 者 小学5・6年生、中学生
- 6 募集定員 20人程度
- 7 参 加 者 18人(小学生10人 中学生8人) 申し込み：38人
- 8 指 導 者 都城工業高等専門学校 情報処理部 6人
鹿児島工業高等専門学校 Robogals Kagoshima 13人
国立大隅青少年自然の家職員2人 法人ボランティア3人



9 日 程

【1日目】		【2日目】	
12:30	集合・受付	6:30	起床
12:45	開講式 オリエンテーション	6:45	テント撤収
13:30	プログラミング体験 都城高専情報処理部	8:00	野外炊飯
16:45	テント設営	9:00	プログラミング体験 鹿児島高専 (Robogals Kagoshima)
17:15	野外炊飯	12:15	閉講式
20:00	入浴	12:30	解散
20:45	星空観望		
21:45	就寝		



10 事業運営上の配慮

- ☐ 講義や活動を円滑に進行するため、班構成を各プログラムの内容に応じて組み換えた。

11 参加者の感想

- ◇ プログラミングがとても楽しかった。
- ◇ アウトドアやインドアがあってよかった。
- ◇ 友達が増えてうれしかった。

12 成果と課題 (○成果、●課題)

- 両高専との連携を強化することができた。
- インドア体験(プログラミング)とアウトドア体験(テント設営、野外炊飯)を両立した特殊な事業であったが、全ての参加者から好評価を得ることができた。
- 2日目のインドア体験は、前日からの疲労もあり集中力が切れてしまっている参加者がいた。プログラムの内容や順番について検討が必要である。



ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
- 3 後 援 鹿児島県教育委員会
- 4 期 日 令和6年6月1日（土）～2日（日）1泊2日
- 5 対 象 者 高校生・大学生（短大・専門学校生を含む）・一般
- 6 募集定員 40人程度
- 7 参 加 者 19名（高校生17名、大学生2名）申し込み：27名
- 8 指 導 者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター准教授 福満 博隆 氏
垂水市消防本部救急隊員2名
国立大隅青少年自然の家職員3名



9 日 程

【1日目】	【2日目】
9:00 受付・開講式	6:00 起床・寝具整理・清掃
10:00 講義「青少年教育施設における体験活動」	7:30 実習「ボランティア活動の技術」（野外調理）
11:40 講義「青少年教育施設の現状と運営」	9:00 実習「自然体験活動の安全管理」（普通救命講習Ⅰ）
12:40 昼食（弁当）	12:00 昼食（弁当）
13:30 講義「ボランティア活動の意義」	13:00 講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:20 実習「レクリエーション」	15:30 閉講式・解散
16:30 実習「ボランティア活動の技術」（野外調理）	
20:30 入浴・就寝	

10 事業運営上の配慮

- ◇ 体験活動について、講義と実習バランスよく学ぶことができるように工夫した。

11 参加者の感想

- ☐ ボランティア活動に興味がわき、実際に活動したいと思った。
- ☐ 仲間と協力して、多くのことを学ぶことができた。
- ☐ 実習と講義のバランスが取れていて良かった。
- ☐ 普段体験することのできない活動ができて楽しかった。

12 成果と課題（○成果 ●課題）

- 事業終了後、法人ボランティアとして17名の登録があった。
- 学校、年齢、性別関係なく、交流を深めて活動に取り組んでいる姿が見られた。
- 参加人数の確保のために、大学と連携するなど、広報の仕方を再考する必要がある。



令和6年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業

スポーツキャンプ

～男女バレーボール・野球・バスケットボール～

(公益財団法人スポーツ安全協会「スポーツ活動等普及奨励助成事業」)

1 趣 旨 青少年の体力・運動能力を踏まえ、競技種目ごとに専門的なトレーニング法による指導を受け、参加者のスポーツ技術やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。

2 主 催 国立大隅青少年自然の家
(企画・運営：鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会)

3 後 援 国立大学法人鹿屋体育大学、鹿児島県教育委員会

4 期 日	男女バレーボール	令和6年6月8日(土)～9日(日)	日帰り2日
	野 球	令和6年7月20日(土)～21日(日)	1泊2日
	バスケットボール	令和6年7月27日(土)～28日(日)	1泊2日

5 対 象 者 中学生部員及びその指導者(募集定員：各回60人程度)

6 参加者及び指導者

競技名	参加者数	指導者
男女バレーボール	24名	国立大学法人鹿屋体育大学バレーボール部 監督、コーチ、部長、部員
野 球	118名	国立大学法人鹿屋体育大学野球部 監督、部長、副部長、部員
バスケットボール	46名	国立大学法人鹿屋体育大学男子・女子バスケットボール部 監督、部員

※生活・宿泊指導 国立大隅青少年自然の家職員



7 日 程

	【男女バレーボール】		【野球・バスケットボール】	
1 日 目	15:00 15:15 15:30 ～17:00	受付(鹿屋体育大学) 開講式 鹿屋体育大学による 指導及び練習 解散	12:45 13:00 13:30 ～17:00 17:30 20:00	受付(鹿屋体育大学) 開講式 鹿屋体育大学による 指導及び練習 入所オリエンテーション入浴・食事 講義・学習・休憩 自然の家宿泊
2 日 目	9:00 ～12:00 12:00 13:00 ～15:30 15:30	集合 鹿屋体育大学による 指導及び練習 昼食・休憩 鹿屋体育大学による 指導及び練習 閉講式	6:00 7:00 9:00 ～12:30 12:30	起床・清掃 朝のつどい・朝食 鹿屋体育大学による 指導及び練習 閉講式

8 事業運営上の配慮

- 指導者と細かな打合せを行い、個別指導や体力の測定など参加者のニーズに応じた活動とした。
- 猛暑で熱中症のリスクが非常に高く、参加費から塩分タブレットを購入したり、水分補給の声かけを多く行ったりした。

9 参加者の感想

競技名	参加者の感想
男女バレーボール	◇ たくさん学ぶことができました。これからの練習で活かすことができるよう頑張っていきます。 ◇ いつもありがとうございます。生徒と近い年代の大学生が直接教えてくれることで生徒は素直にアドバイスが心に届き、プレーの幅を広げてくれます。
野 球	◇ 体育大学の学生さんが丁寧に指導してくれて楽しく過ごせました。 ◇ 学生たちのコミュニケーション能力の高さもあって初心者の多いチームでしたが積極的に参加することができました。学生たちの心がとても安定しているなと思いました。
バスケットボール	◇ 今年も丁寧な大学生の指導のおかげで充実した2日間になりました。この夏休みでさらなるレベルアップにつなげていきたいです。ありがとうございました。

10 成果と課題

- 各個人のレベルに合わせて、丁寧に指導していただき、指導者も参加者も喜んでいた。
- 練習をする中で、プレーに限らず、球拾い・言葉掛けなど積極的に行動する生徒が増えていったのを感じた。
- 野球にて初の女子チームの参加があった。
- 募集定員を超える申込をいただいたが、体育大学と連携をしながら、時間変更をして全員受け入れることができた。
- 中学校の指導者より大学生へ引き続き学校にも指導へ来てほしい旨申し出があり、指導者を目指す学生にとってよいつながりができる機会となった。
- 大会と日程が近く、参加できない学校が多く見られた。



令和6年度生活・自立支援キャンプ事業
「おおすみくん家に遊びに来ませんか！！①～⑤」

- 1 趣 旨 不登校及び不登校傾向のある小・中学生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動などを通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知ってもらうことを目的とする。
- 2 期 日 令和6年6月15日（土）、8月24日（土）、10月19日（土）
12月7日（土）、令和7年2月1日（土） 全5回実施
- 3 対 象 者 小中高校生（不登校及び不登校傾向の児童生徒）
保護者
- 4 募集定員 10人程度
- 5 参 加 者 児童生徒 1回目：4人、2回目：1人、3回目：1人、4回目：1人、5回目：4人
保 護 者 1回目：6人、2回目：3人、3回目：2人、4回目：2人、5回目：6人
- 6 指 導 者 大隅青少年自然の家職員、絵本専門士
- 7 連 携 県教育庁高校教育課学校教育生徒指導班
- 8 日 程

実施日	時 間	活動内容
① 6月15日（土）	10：00～12：00	【創作活動】ウッドバーニング
② 8月24日（土）		【海浜活動】カヌー体験
③ 10月19日（土）		【体験活動】秋のお団子づくり、読み聞かせ
④ 12月 7日（土）		【野外炊飯】カレーライス作り
⑤ 2月 1日（土）		【創作活動】森のクラフト（イーゼル）

- 9 事業運営上の配慮
 - 児童生徒の状況を考慮して、当日の活動内容や時間等を柔軟に対応した。
 - 参加児童生徒向けの体験活動とともに、保護者向けに県教委のスクールカウンセラー・スーパーバイザーを講師に招いた懇談会で、悩みに寄り添う時間とした。
- 10 参加者の感想
 - カヌーに乗れてすごく楽しかった。もっと長い距離を漕いでみたい。このまま薩摩半島へ渡ってみたい。
 - いつもはあまり食べないけど、自分で作ったカレーライスは美味しい。
- 11 成果
 - 最初とはまどいがある参加者も、時間や回数が増えるごとに笑顔が見られた。
 - 参加者の興味関心のあることが分かり、会話の話題にもなった。
 - 懇談会は、保護者の悩みを共有できる貴重な機会となるため継続したい。



「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

- 1 趣 旨 地域の魅力や抱えている課題を自ら発見し探究する活動を通して、物事を深く追究する姿勢や主体的に取り組む態度を養い、実践活動に必要な知識・考え方を習得するとともに、実際の行動へと踏み出し地域に貢献する意欲を高める。
- 2 期 日 令和6年7月13（土）～7月15日（月・祝） 2泊3日
- 3 対 象 者 日本在住の高校生及びそれに相応する学籍か年齢にある者
- 4 募集定員 20名程度（参加者14名 ※申込時17名）
- 5 指 導 者 鹿屋市柳谷町内会（やねだん） 代 表 豊重 哲郎 氏
鹿屋本町一番商店街振興組合 理事長 遠矢 達一 氏 副理事長 久木田 弘 氏
鹿屋市本町町内会 会 長 久木田正輝 氏 （他、大隅青少年自然の家職員）
- 6 日 程



7月13日(土)		7月14日(日)		7月15日(月・祝)	
9:00 ～ 9:20	受付	7:00 ～ 9:00	朝食・記念撮影	7:30 ～ 8:30	朝食・準備
9:30 ～ 10:20	ガイダンス1h	9:00 ～ 9:50	講義・演習 「課題解決の基礎」2h	9:00 ～ 9:50	講義・演習 「行動計画の基礎」2h
10:20 ～ 11:10	講話 「地域づくりの実践」1h	9:50 ～ 10:40		9:50 ～ 10:40	
11:10 ～ 11:15	準備	10:40 ～ 12:20	フィールドワーク②2h	10:40 ～ 11:30	発表1h
11:15 ～ 12:15	昼食・休憩	12:20 ～ 13:20	昼食・休憩	11:30 ～ 12:30	昼食・休憩
12:15 ～ 13:05	フィールドワーク①4h	13:20 ～ 14:10	フィールドワーク②1h	12:30 ～ 13:30	実践活動のための ガイダンス1h
13:05 ～ 13:55		14:20 ～ 15:10	講義・演習 「地域課題の探究」3h	13:30 ～ 14:00	閉講式
13:55 ～ 15:35		15:10 ～ 16:00		13日【導 入】4科目 8 単位 14日【探 究】4科目 9 単位 15日【地域課題】3科目 4 単位 ※計 21 単位(50分＝1単位) * 最終日「発表」では、フィールドワーク先で学んだことを基に、課題解決策の提案や今後、地域で活動してみたいことを発表します。 発表の時には、まちづくりや社会教育・生涯学習に従事している方々にも参観いただき、交流する予定です。	
16:00 ～ 16:50	16:00 ～ 16:50				
16:50 ～ 17:40	16:50 ～ 17:40	発表1h			
18:00 ～ 19:00	諸連絡・夕食	18:00 ～ 19:00	諸連絡・夕食		
19:00 ～ 20:00	入浴	19:00 ～ 20:00	入浴		
20:00 ～ 21:30	自主学習・自由交歓	20:00 ～ 21:30	自主学習・自由交歓		

7 事業運営の配慮

- ☐ 夏場の食中毒感染リスクを考慮して、フィールドワーク先での弁当提供を取り止め、現地飲食店での食事購入に変更した。（初日の昼食）
- ☐ 参加者14名を同じ学校や地域が重複しないように4グループに分け、お互いが切磋琢磨しながらグループ演習や発表ができるようにした。
- ☐ 最終日の発表では、県教育委員会や鹿屋市役所の職員に参観してもらい、参加者の発表についての講評や今後の地域実践活動に向けてエールを送っていただく機会を設けた。

8 参加者の感想

- ◇ 初めて会った他校の高校生たちと、1つの目標に向けて協力することで、新たな視点や発見があり、面白かったです。
- ◇ 自分のアイデアを他人が出したアイデアと組み合わせ、新しいアイデアをつくり出すことができるようになりました。



9 成果と課題（○成果 ●課題）

- 過去4年の本事業において、初めて2桁台となる参加者で実施することができた。（熊本県から1名）
- 最終日の発表では、県教育委員会から4名、鹿屋市役所から6名の臨席があり、参加者と交流できた。
- 地元（大隅地区）からの参加者を増やす。（本年度14名中2名が大隅地区）

令和6年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業

登山キャンプ

(公益財団法人スポーツ安全協会のスポーツ活動等普及奨励助成事業)

- 1 趣 旨 登山を通して、豊かな情操や自ら考える力などの力を培い、青少年の自立を支援する。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
(企画・運営：鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会)
- 3 後 援 国立大学法人鹿屋体育大学、鹿児島県教育委員会
- 4 協 力 霧島山岳会
- 5 期 日 令和6年11月2日(土)～4日(月) 2泊3日
- 6 参加対象 小学5年生～中学生
- 7 募集定員 20人
- 8 参加者 21人(申し込み：54人)
- 9 指導者 霧島山岳会2人
国立大隅青少年自然の家職員4人、法人ボランティア3人



10 日 程

11月2日(土)	11月3日(日)	11月4日(月)
10:30 受付	5:00 起床・朝食・テント片付け	6:00 起床・朝食・テント片付け
11:00 開講式	7:20 登山	8:00 登山
11:15 チームビルディング	(御岳登山口～妻岳分岐 ～大笠柄岳)	(妻岳分岐～御岳登山口)
12:00 昼食	昼食	11:00 昼食
13:00 パッキング、準備	16:00 テント泊準備	13:00 シャワー・片付け
16:00 テント泊準備	17:00 夕食	14:30 閉講式
17:00 夕食・シャワー	18:00 星空観察(妻岳山頂)	15:00 解散
20:00 就寝	20:00 就寝	

11 事業運営上の配慮

- ☐ 実地踏査を入念に行い、様々なトラブルに対応できるよう準備を行った。
- ☐ 登山に初挑戦の参加者が多かったため、少しでも荷物を軽減し安全に活動できるよう、事前に共用の水を山中へ運び入れた。

12 参加者の感想

- ◇ 自分の力で最後まであきらめずに、頂上まで歩いて感動した。
- ◇ 歩いている途中に自分の知らない植物を見たり、変わっていく山の景色を見たりして、自分はなんて素敵な地域にすんでいるのかと再認識できた。(特に夜景がきれいだった。)
- ◇ 遠くから見た山は本当に高く、最後まで登れるか不安だったけど、友達と話しをしながら登っていたらあっという間に切り抜けることができて嬉しかった。

13 成果と課題(○成果、●課題)

- グループ毎に物品を運搬することで、自分ができることを見付け、話し合い、行動し、相手を気遣う言葉掛けがされていた。
- 参加者全員が登山を完走することができ、達成感を感じられていた。
- 登山をする際の基本的なマナーについて事前に学ぶ時間が必要だった。



令和6年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業
フェスティバル秋 in AMU 広場

- 1 趣 旨 文部科学省「子供の体験活動推進宣言」（令和4年）の実現に向けて、官民が連携し、コロナ禍で奪われた子供の体験の機会を提供するとともに、家族や一般の方々に体験活動の重要性を啓発する。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
(企画運営：鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会)
- 3 後 援 鹿児島県教育委員会
- 4 期 日 令和6年11月10日（日）
- 5 参加対象 体験活動に興味のある家族・一般の方々
- 6 来場者数 6,568人
- 7 協力団体 県アジア・太平洋農村研修センター、県上野原縄文の森、県立青少年研修センター、県立霧島自然ふれあいセンター、県立南薩少年自然の家、県立奄美少年自然の家、鹿児島市立少年自然の家、出水市青年の家、薩摩川内市立少年自然の家、県総合体育センター、県霧島アートの森、シャボン玉石けん株式会社、株式会社サクラクレパス九州営業所、鹿児島市立広木小学校金管バンド、唄者：永 志保
- 8 場 所 JR鹿児島中央駅前AMU広場
- 9 日 程



時間	主 な 活 動 内 容
9:00	全体打合せ会
10:00	イベント開始 (オープニング・アトラクション；広木小金管バンド)
13:30	島唄ミニコンサート（唄者：永 志保さん）
15:00	イベント終了
15:30	全体終礼・解散



10 事業運営上の配慮

- ☐ JR九州エージェンシーと連携して、各ブースの広さや配置を工夫し、来場者の動線に配慮した。
- ☐ 金管バンド演奏及び島唄ミニコンサートを実施し、集客を図った。
- ☐ 前日に地元ラジオ放送での番組において、当イベントの告知（宣伝）を行った。

11 参加ブースの感想

- ◇ 金管バンドの演奏や島唄ミニコンサートなど、出展者も楽しめ、癒やされました。
- ◇ 各地でイベントが多い日の実施であったので来場者数を心配したが、多くの来場があったよかった。
- ◇ 他の施設の創作活動内容等が参考になった。
- ◇ 多くの来場された方々に体験活動のよさや施設の活動プログラムなどを周知することができた。



令和6年度生活・自立支援キャンプ事業 「子ども生き生き体験学習」

- 1 趣 旨 児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験及び生活体験の活動を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。
- 2 期 日 令和6年11月23日（土）～24日（日） 1泊2日
- 3 対 象 者 社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団 児童養護施設 仁風学園
- 4 参 加 者 8人（児童6人・引率者2人）
- 5 指 導 者 鹿屋航空基地史料館職員、大隅青少年自然の家職員2人

6 日 程

11月23日（土）	11月24日（日）
10:30 出合いのつどい 平和学習・鹿屋航空基地史料館見学	6:00 起床・身支度 7:30 朝食
12:00 昼食	9:00 退所点検
13:00 自由時間（国立大隅青少年自然の家）	10:00 SDGs防災フェスティバル参加 （昼食含む）
14:00 フライングディスクゴルフ体験	13:00 アンケート記入
16:00 野外炊飯（バーベキュー）	13:30 別れのつどい
19:30 入浴	
21:00 就寝	

7 事業運営上の配慮

- 参加児童の興味・関心を施設担当者から丁寧に聞き取り、それをもとに関係機関と綿密な打合せを行い、活動に取り入れた。
- 活動毎に、内容確認と参加児童の現状について担当者と打合せを行い、無理なく活動ができた。
- 台風10号による接近のため事業内容（日程、活動内容及び事業予算）を変更した。

8 参加者の感想（◎子ども ○引率者）

- ◎ フリスビーでまっすぐ飛ばすことができてうれしかったです。
- ◎ バーベキューができてうれしかったし、楽しかったです。
- 子どもたちと遊んでもらい、ありがとうございました。子どもたちが自転車に乗れるようになりました。
- 子どもたちの体力は底なしなので、学生ボランティアが2～3人いたらより楽しかったと思います。

9 成果と課題（○成果 ●課題）

- 普段経験できない活動ができ、子どもや引率者ともに充実した時間となった。
- 同一施設は3年間までであるため、令和7年度には別の施設との事業になる。本年度中に、連携できる施設を検討していく。



「SDGs防災フェスティバル」

- 1 趣 旨 防災や減災に関する活動や、被災時の生活体験、災害時の応急対策活動の体験、弱者の視点からの災害対応、多様性への配慮、自助・共助・公助による生きる力を学ぶ機会を提供する。そして、これらの体験をととして持続可能な開発のための教育（ESD）に寄与する。
また、文部科学省「子供の体験活動推進宣言」（令和4年）の実現に向けて、官民が連携し、子供の体験の機会を提供する。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
（企画・運営：鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会）
- 3 共 催 国立大学法人鹿屋体育大学
- 4 後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、鹿屋市、鹿屋市教育委員会、垂水市、垂水市教育委員会、南日本新聞社、MBC南日本放送、鹿屋市社会福祉協議会
- 5 期 日 令和6年11月24日（日）
- 6 対 象 者 どなたでも（親子、防災関連従事者、防災や体験活動に興味・関心がある方）
- 7 募集定員 300人（来場者358人 関係者68人 計426人）
- 8 協力団体 大塚製薬株式会社、TOTO株式会社、シャボン玉石けん株式会社、株式会社サクラクレパス、ユクサおおすみ海の学校、セキスイハイム九州株式会社、鹿児島空港ビルディング株式会社、株式会社きたやま、株式会社志布志フーズ、カイケンコーポレーション株式会社、Citta yoga room、鹿屋衛生管理センター株式会社、Sanctuary aroma salon、有限会社森伊蔵酒造、KR（鹿屋レスキュー）株式会社ランディ、鹿屋市役所安全安心課・健康増進課、大海酒造株式会社、株式会社桜島、特定非営利活動法人ローズリングかのや、鹿児島トヨペット株式会社、株式会社ベリーののうち、鹿屋市社会福祉協議会こども食堂、鹿児島フライングディスク・クラブ、就労継続支援型事業所ココハウス、宮崎県御池青少年自然の家、特定非営利活動法人くすの木自然館、鹿児島工業高等専門学校、株式会社KAGO食スポーツ、合同会社シスルナベース絵本専門士かつぱときりんのつの文庫³、喜入マナビバプロジェクトつわぶき、有限会社泰夫水産、特定非営利活動法人グランシーハーツ、おおすみ半島スマートエネルギー株式会社、鹿屋市漁業協同組合、垂水市漁業協同組合

9 日 程

内容	10：00～	11：00～	12：00～	13：00～	14：00～	15：00
体験・展示	各フロア・プレイホール		昼食・休憩	各フロア・プレイホール		終　了
防災講演会				第1学習室		
炊き出し実演	学習棟前		昼食・休憩	学習棟前		

8 事業運営の配慮

- 雨天時でも実施できるように、出展ブースのほとんどを屋内に配置した。
- 前日を会場設営日とし、協力団体の荷物搬入と前泊を可能にした。
- 学習棟への回遊性を確保するため、協賛品のプレゼント場所とした。

9 参加者・協力団体の感想

- ◇ 娘が防災士に興味があり、本人が是非行きたいと言うので参加した。（参加者）
- ◇ 町内会で自主防災活動が重要になっているので、よい情報収集の機会になった。（参加者）
- ◇ 自分たちの活動を知ってもらえる機会になり、大変よかった。（協力団体）
- ◇ 色々な角度からの SDGs や防災を知ることができ、私たちも楽しませてもらった。（協力団体）

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 新規事業として多くの団体から出展協力や協賛をいただいた。（34 ブース出展、抽選会景品提供等）
- 施設利用団体（KR、鹿屋体育大）や教育事業「地域探究プログラム」の活動グループ（喜入の高校生）からの出展協力が得られた。
- 当日は各地でイベントが多く実施されていたため、次年度計画の際は開催日の設定に検討が必要。
- 防災講演会は、次年度計画の際は別日での実施や体験活動のみに特化するなどの検討が必要。



令和6年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業

おおすみくん家 通学合宿

1 趣 旨 集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身につける。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。

2 主 催 国立大隅青少年自然の家
(運営・企画：鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会)

3 後 援 鹿児島県教育委員会

4 期 間 令和7年2月3日(月)～2月21日(金) 計3週(全5回) 各回2泊3日

グループ	期 間	参加校
Aグループ	2月3日(月)～5日(水)	鹿屋小、笠野原小、田崎小、高隈小
Bグループ	2月5日(水)～7日(金)	吾平小、南小、鶴峰小、東原小、花岡小、下名小
Cグループ	2月12日(水)～14日(金)	野里小、大始良小、寿小
Dグループ	2月17日(月)～19日(水)	寿北小、西原小
Eグループ	2月19日(水)～21日(金)	西原台小、垂水小、水之上小

※ 鹿屋市・垂水市内の小学3～6年生(学校までの所要時間約30分圏内の小学校)

5 参 加 者 申込：222名 参加：193名

グループ	参加校(参加者数)
Aグループ	鹿屋小(20)、笠野原小(12)、田崎小(14)、高隈小(1)
Bグループ	吾平小(11)、南小(5)、鶴峰小(1)、東原小(6)、花岡小(6)、下名小(7)
Cグループ	野里小(13)、大始良小(11)、寿小(12)
Dグループ	寿北小(26)、西原小(21)
Eグループ	西原台小(18)、垂水小(5)、水之上小(4)

6 講 師 絵本専門士 吉田 美奈子 氏
国立大隅青少年自然の家職員
研修指導員(鹿屋体育大学学生)3名

7 日 程

1日目		2日目		3日目	
	保護者により 自然の家まで送る	6:00 起床・身支度・清掃 6:45 朝食 7:30 自然の家バスで登校 8:00 (学校生活)		6:00 起床・身支度・清掃 6:45 朝食 7:30 自然の家バスで登校 8:00 (学校生活)	
17:00	受付				
17:15	出合いのつどい				
18:00	オリエンテーション	16:15 自然の家バスで下校 ※学校の校時表通り		放課後 学校から そのまま帰宅	
18:30	夕食	17:00 学習			
19:00	宿泊室入室	18:00 夕食			
19:15	入浴	19:00 入浴			
20:00	学習、夢の教室	20:00 絵本専門士による 読み聞かせ			
21:30	翌日の準備	21:30 翌日の準備			
22:00	就寝	22:00 就寝			

8 事業運営上の配慮

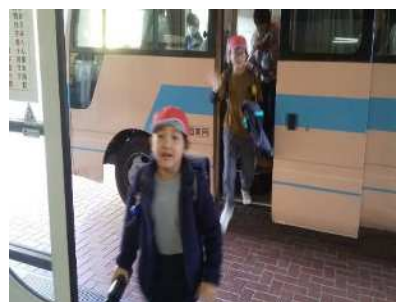
- 1日目のオリエンテーションで、本事業の趣旨を参加児童全員に説明し、基本的な生活習慣の定着に向けて「おおすみくん家通学合宿7つの約束」の意識化を図った。
- 配慮を要する児童について、事前に保護者へ聴き取りを行い、対応策について連絡した。
- 計画では1月から2月にかけて実施予定であったが、1月の一時休館に伴い、期間を2月の3週間に短縮し、また、応募校及び参加人数を制限した。

9 参加者の感想

- ◇ いつもは他の学校の人と一緒に過ごすことがないけれど、通学合宿に参加して友達が増えていい機会になりました。みんなと声を掛け合い、協力して楽しく過ごすことができました。
- ◇ 違う学校の人へ自分から勇気を出して話しかければ、思ったよりすぐ仲良くなることができました。これからの生活の中で知らない人と話すときがあったら勇気を出して話しかけたいです。
- ◇ 初めての通学合宿で緊張していたけど、5・6年のお姉ちゃんが優しく声をかけてくれて安心しました。私も班長さんみたいになりたいです。
- ◇ 毎日、夜ふかしをして生活リズムがくずれていたけど、通学合宿に参加して、早寝・早起きをしたり、しっかりと食事をとったりできました。決まった時間の中で自分勝手な行動をしないで暮らすことが自分の中でいい経験になりました。
- ◇ 家ではお母さんに何でもやってもらうことが多かったけど、通学合宿で身の回りのことは自分でできるようになったから、家でも続けていきたい。

10 成果

- 合宿期間中、他団体で利用していた日本経済大学ヨット部顧問である今村公彦先生（リオ五輪出場）の協力を得て、オリンピックと子どもたちがふれあう「夢の教室」を実施することができた。
- 異なる学校・異なる学年での集団生活を通じて、リーダーシップやフォローシップを自然と育むことができた。
- 鹿児島県内に在籍する「絵本専門士」のスキル発揮の場や機会を提供することができた。
- 3年生も応募可能としたので、5年生時で行う集団宿泊学習の事前学習と位置付けることができた。



令和6年度 鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業
スポーツクライミングの日

- 1 趣 旨 スポーツクライミングを身近に感じてもらうとともに、困難に立ち向かうチャレンジ精神を養成する。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
(企画・運営：鹿児島県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会)
- 3 後 援 鹿児島県教育委員会
- 4 期 日 第1回：令和7年2月15日(土)
第2回：令和7年2月24日(月・祝)
- 5 参加対象 体験活動に興味のある子ども(小学生)
- 6 募集定員 各回30人程度
- 7 参加者 第1回：11人(申込人数：11人) 第2回：14人(申込人数：14人)
- 8 指導者 国立大隅青少年自然の家職員



9 日 程

	全回共通
9:30	受付
9:50	開講式
10:00	スポーツクライミングについて(説明)
10:30	体験開始
12:00	体験終了・アンケート記入・閉講式



10 事業運営上の配慮

- ☐ 導入時に画像を用いてスポーツクライミングの紹介や登り方のコツ、セーフティートーク等の説明を行い、クライミングについての理解を深められるようにした。
- ☐ 説明と同時にアイスブレイクを行い、参加者同士が交流しやすい環境を作った。

11 参加者(保護者)の感想

- ◇ 目標の高さまで行けず悔しかった。皆が応援してくれたり、アドバイスをくれたりしたことが嬉しかった。
- ◇ 「また参加したい!」と思えるくらい楽しかった。
- ◇ 子どもがスポーツクライミングに興味があり、失敗しても諦めない姿を見られて良かった。運動は得意ではなく、すぐ諦めるタイプと思っていたので意外な一面で伸ばしてあげたいと思った。
- ◇ 体験を通してすぐに周りの子と仲良くなれていてその姿を見るのも面白かった。

12 成果と課題(○成果 ●課題)

- 完登することで自信につながり、レベルアップを目指したいという向上心も見られた。
- 家族やグループでも、本施設でクライミング体験ができることを知ってもらうきっかけとなった。
- 職員の指導方法のスキルアップを図ることができた。
- 定期的に備品等の点検をし、年次的な購入を計画していく。



令和6年度における傷病発生状況

1 はじめに

令和6年度に、当施設では延べ42,526人の利用者が活動を行った。利用者の健康と安全には所全体で取り組んでいるが、例年数件の傷病が発生している。令和6年度の傷病発生状況について、傷病記録表・病院受診報告書を基に、前年度と比較結果を報告する。

2 傷病発生総数

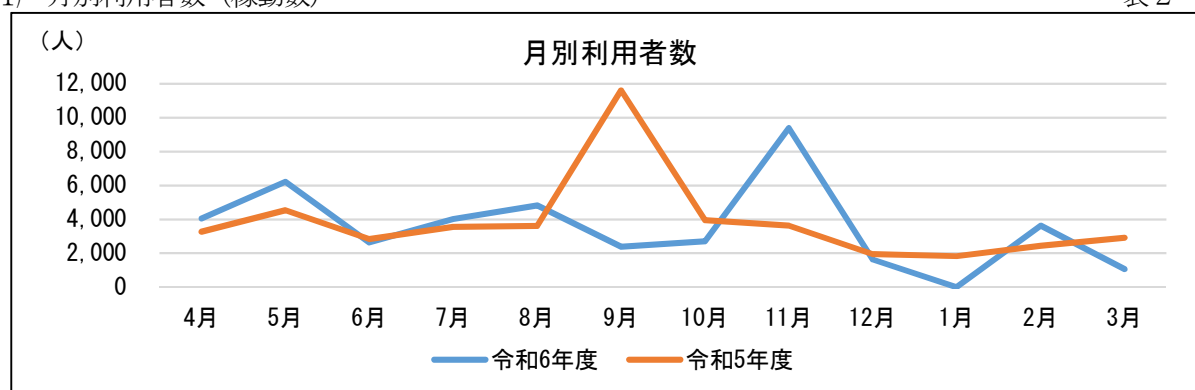
表1

	総数	内科系傷病 (%)	外科系傷病 (%)	利用者数に対する発生率 (%)	利用者数 (稼働数)
令和6年度	41	16 (39.0)	25 (61.0)	0.0964	42,526
令和5年度	65	38 (58.5)	27 (41.5)	0.1408	46,151
令和4年度	46	27 (58.7)	19 (41.3)	0.1481	31,061

3 月別研修者数及び傷病発生状況

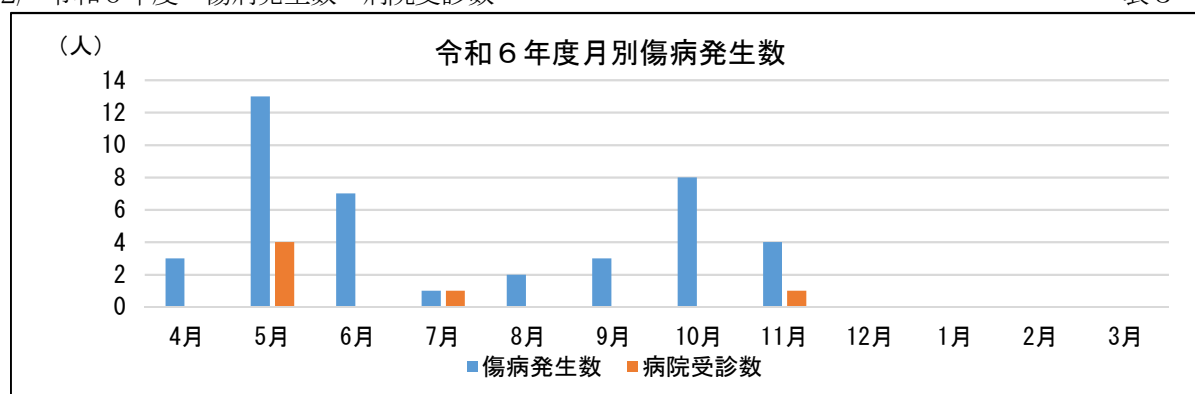
(1) 月別利用者数 (稼働数)

表2



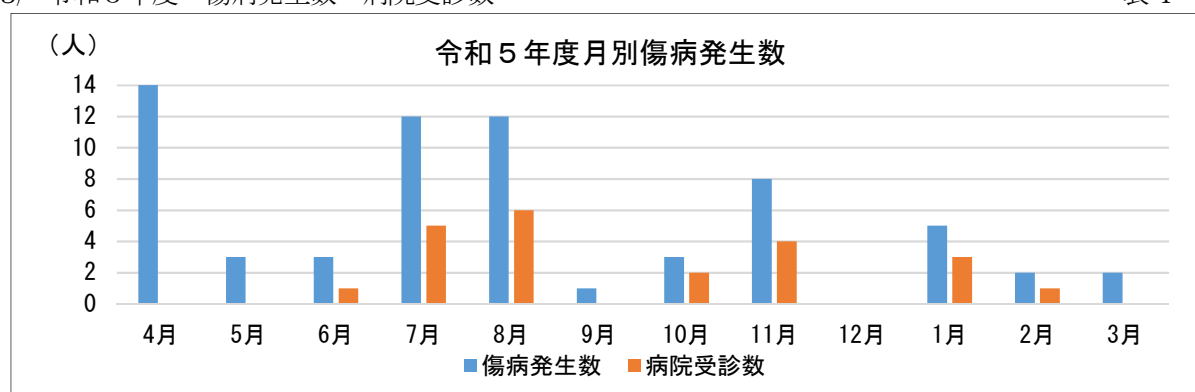
(2) 令和6年度 傷病発生数・病院受診数

表3



(3) 令和5年度 傷病発生数・病院受診数

表4



令和5年度の傷病発生数は利用者とは比例しておらず、4・8月は野外活動による虫刺され等の増加が見られた。令和6年度の傷病発生数は利用者数の変化と似た傾向を示している。

病院受診者は、前年度が22人であったものが、本年度は6人とかなり減少している。

4 傷病発生順位

表5-1

内科系	令和6年度	令和5年度
1位	発熱	発熱
2位	頭痛・腹痛	吐き気
3位	めまい	頭痛・倦怠感

表5-2

外科系	令和6年度	令和5年度
1位	打撲	虫刺され
2位	擦り傷・捻挫	打撲・捻挫
3位	虫刺され	切傷・やけど

下表は内科系と外科系それぞれの傷病発生数と割合を表したものである。

表6-1

内科系傷病者数 (%)		
	令和6年度	令和5年度
発熱	7 (43.8)	16 (42.1)
頭痛	3 (18.8)	4 (10.5)
腹痛	3 (18.8)	0 (0.0)
めまい	2 (12.5)	0 (0.0)
吐き気	1 (6.3)	5 (13.2)
倦怠感	0 (0.0)	4 (10.5)
嘔吐	0 (0.0)	1 (2.6)
咳・喉の痛み	0 (0.0)	1 (2.6)
脱水	0 (0.0)	1 (2.6)
生理痛	0 (0.0)	1 (2.6)
発疹	0 (0.0)	1 (2.6)
過呼吸	0 (0.0)	1 (2.6)
その他	0 (0.0)	3 (7.9)
合計	16	38

表6-2

外科系傷病者数 (%)		
	令和6年度	令和5年度
打撲	8 (32.0)	4 (14.8)
捻挫	4 (16.0)	4 (14.8)
すり傷	4 (16.0)	1 (3.7)
虫刺され	3 (12.0)	10 (37.0)
切傷	2 (8.0)	3 (11.1)
やけど	2 (8.0)	3 (11.1)
刺傷	1 (4.0)	0 (0.0)
靱帯損傷・断裂	0 (0.0)	1 (3.7)
その他	1 (4.0)	1 (3.7)
合計	25	27

5 結果・考察

令和6年度は、利用者数に比較し、傷病発生数がかなり減少している。表1を見ると、総数及び内科系傷病の発生がかなり減少していることがわかる。表5・6で内容を確認すると、内科系傷病の発生は前年の半数以下で、病院受診者もいない。少しでも体調が悪いと来所を控えたと考えられる。また、自宅に帰宅後の状況確認ができていなかったとも考えられ、次年度にむけ傷病記録や受診者傷病記録の提出の徹底や、帰宅後の追跡調査も行っていきたい。外科系は虫刺されが減少しており、活動時の服装や注意事項の説明が適切になされたと考えられる。また、安全点検や活動前の事前の周知により、不注意・不適切な行動による受傷がなかったとも考えられ、継続していきたい。

今後も衛生管理、安全対策、施設の環境整備に努め、少しでも病気や怪我の発生及び重症化を防止していきたい。

6 まとめ

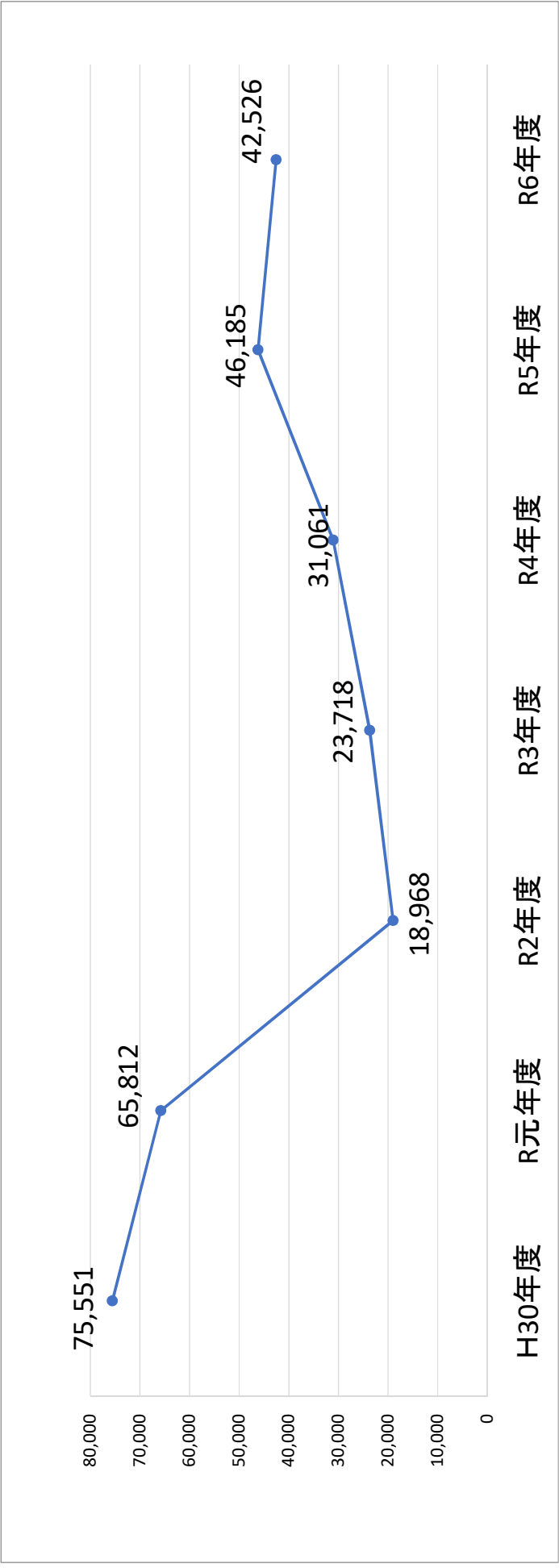
本施設周辺は、広大な自然に囲まれ、自然の美しさ、雄大さ、神秘さを感じることができる。一方で、自然の厳しさ、危険性も考え、利用者が無理なく安全に活動を展開できるよう、施設の管理・整備を充実していかなければならない。また、利用者の危険予知能力を高めるためにも、活動開始前の安全指導をさらに充実していく必要がある。

国立大隅青少年自然の家利用者数の推移

(1) 利用者数の推移

【令和元年度～】

年度		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
宿泊	団体数	593	492	171	239	257	272	244	①
	実利用者数	17,922	15,364	4,378	6,431	7,760	8,865	8,615	②
	延宿泊者数	32,548	26,382	6,543	9,058	11,112	14,821	12,264	③
	稼働数	50,376	41,387	10,892	15,456	18,844	23,633	20,842	④
日帰	団体数	568	418	370	429	437	395	418	⑤
	稼働数	24,348	23,995	8,032	8,262	12,140	22,476	21,090	⑥
延団体数		1,161	910	541	668	694	667	662	⑦
稼働数		75,551	65,812	18,968	23,718	31,061	46,185	42,526	⑧



(2) 団体別利用者数の推移

【令和元年度～】(稼働数算出)

団体種	年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	利用形態	稼働数	稼働数	稼働数	稼働数	稼働数	稼働数
1.青少年団体 (当機構含む)	宿泊	19,889	5,023	5,504	5,834	6,200	5,732
	日帰り	17,155	3,542	1,228	4,627	11,298	8,323
2.幼稚園 ・保育園	宿泊	956	102	0	0	284	178
	日帰り	1,226	827	921	897	1,209	1,125
3.小学校	宿泊	3,814	3,097	3,783	4,541	3,917	4,155
	日帰り	243	916	698	489	456	628
4.中学校	宿泊	4,522	540	2,576	3,681	3,438	2,735
	日帰り	110	249	233	740	408	302
5.高等学校	宿泊	1,321	395	58	393	1,061	1,909
	日帰り	13	9	30	192	203	93
6.大学・短大 ・高等専門学校	宿泊	956	150	158	370	66	398
	日帰り	200	182	177	285	280	128
7.その他の学校	宿泊	114	0	0	222	212	210
	日帰り	6	32	158	5	6	14
8.官公庁 ・企業等	宿泊	934	61	192	231	2,182	463
	日帰り	237	178	430	279	264	253
9.家族	宿泊	483	206	243	186	370	115
	日帰り	306	199	154	229	145	140
10.その他	宿泊	8,757	1,347	2,942	3,414	5,938	4,963
	日帰り	4,929	1,942	4,233	4,474	4,294	4,816
合計	宿泊	41,746	10,921	15,456	18,872	23,686	20,842
	日帰り	24,425	8,076	8,262	12,217	22,552	21,684
総計		65,812	18,968	23,718	31,061	46,185	42,526

令和7年度 国立大隅青少年自然の家運営方針

I 基本的な運営方針

令和7年度は、中期目標期間の最終年度にあたり、また、次期中期目標期間がスタートする令和8年度に向けた準備をする年に当たることを意識し、文部科学省の中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月21日中央教育審議会答申）等を踏まえ、青少年教育のナショナルセンターとして、健全な青少年の育成に資することを目的に、体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝える運動を推進するため、青少年教育指導者その他の青少年教育関係者（以下「青少年教育指導者等」という。）及び青少年を対象とした事業の実施、研修利用に対する指導・助言等の研修支援、青少年教育関係機関・団体等との連携促進、青少年教育に関する調査研究、青少年教育団体が行う活動に対する助成を実施するとともに、地域の実情や青少年を取り巻く環境に応じ、安全安心な体験活動や集团的宿泊活動の機会等を提供し、青少年教育の振興及び健全な青少年の育成を図る。

II 事業運営に関する重点事項

1 青少年教育の振興及び健全な青少年の育成

施設周辺の自然環境や特色を活かし、自然体験活動や集団宿泊活動をはじめ、科学・芸術文化・国際交流など多様な体験活動の場と機会を提供し、ナショナルセンターとして、次代を担う青少年の自立に向けた事業を総合的に推進する。

2 教育事業及び研修支援の重点事項の推進

教育事業や研修支援を通して「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」国民運動を連動させて取り組む。また、教育事業と研修支援が連動したプログラムの開発・拡充を目指し、教育事業で実施したことを研修支援の活動プログラムに落とし込む。その際、SDGsやESDの考え方を取り入れ、特色あるプログラムや国土強靱化に資する防災・減災教育プログラムを開発・拡充する。

また、日帰り利用料金の新設も踏まえ、さらなる研修支援の質の向上（安全安心な教育環境の確保、「主体的・対話的で深い学び」が可能となる活動プログラムの充実、研修支援と教育事業が連動したプログラムの開発・拡充、利用者の利便性及び満足度の向上、アウトリーチを含めた体験活動の機会と場の拡充等）に継続的に取り組む。

3 安全安心な教育環境の確保

すべての業務に対して安全への意識を常にもち、利用者や職員にとって安全安心な教育環境を提供する。

4 年度計画の目標達成と事業数の厳選・事業費の効率化

第4期中期目標・中期計画で掲げられている年度計画の目標を達成することを目指す。事業目的を鑑み、受益者負担の対象範囲を拡大できる事業は、講師への指導料・旅費やボランティア経費、消耗品費などを新たに事業参加費に計上するなど、事業予算の効率化を図る。

5 新たな視点による事業展開

新しいネットワークを広げ、クラウドファンディングや外部資金、ふるさと納税等を活用するなど、運営費交付金のみならず事業を実施していくスキームを検討する。

6 次期中期目標を見据えた事業の検討と現状分析

次期中期目標期間を見据え、今後果たしていくべき役割・機能を明確化し、ナショナルセンターとして重点的に実施すべき教育事業等について検討する。

III 教育事業の質の充実と普及

I 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

(1) 青少年教育に関するモデル事業の推進

時代を担う青少年のための専門性の高いモデル的体験活動を推進するために、最終年度には、これまで実施しとめてきた実践研究事業の成果等を、広く青少年教育関係者等へ発信する。

① 実践研究事業

これまで実践してきた「文部科学省委託事業『海からのメッセージ』」の報告書等を活用し、青少年教育関係機関・団体等へ効果的に発信・普及する。

② 地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業）

環境教育（海洋）の教育テーマに基づいた特色化事業（軽石クラフト）の学習方法、教材及び指導案を青少年教育関係機関・団体等へ効果的に発信・普及するとともに、活動プログラムで取り入れる団体が増加するように努める。

③ 全国高校生体験活動顕彰制度に関連する事業

高校生を対象に、体験活動を通して地域が抱えている課題を自ら見だし、その解決に向けた探究活動を通して、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成することを目的に「『地域探究プログラム』オリエンテーション合宿」を実施する。

(2) 社会の要請に応える体験活動等事業

社会の要請に応える体験活動を推進するために、青少年教育のナショナルセンターとして事業内容を厳選したうえで、「親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などの各種体験活動に親しむ機会と場を提供する教育事業」や「青少年を対象に体験活動を通じた自己成長や自己実現を図る教育事業」、「体験活動の意義を踏まえた防災学習や環境教育などのSDGsの実現に寄与するESDに対応した教育事業」などを実施する。

① 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動、書道をはじめとする日本の文化体験などに親しむ機会と場を提供する事業及びそれらを地域の関係機関・団体等と連携し実施する事業

ア 体験することの楽しさや重要性について普及・啓発を図り、体験活動の推進に向けて、県内の青少年教育施設及び関係機関等と連携して、施設等の広報を兼ねた「かごしま親子わくわく体験DAY～秋・学びと発見フェス～」を実施する。

② 体験活動を通じた自己成長や自己実現を図る事業

ア 国立大学法人鹿屋体育大学との連携協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援することを目的に、公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成事業「スポーツキャンプ」をバレーボール・野球・バスケットボールの3種目実施する。

イ 1,000m級の7つの山が連なる高隈山系を活用して、小・中学生を対象に公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成事業「登山キャンプ」を実施する。

③ 防災・減災教育事業

防災や減災に関する活動、被災時の生活体験、災害時の応急対策活動の体験、弱者の視点からの災害対応、多様性への配慮、自助・共助・公助による生きる力等を学ぶ機会の提供のために「SDGs親子ぼうさいフェスティバル」を実施する。

(3) 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

不登校、引きこもり、ネット依存、ADHD等発達障害や身体障害など課題を抱える青少年の支援するため、企画段階から専門機関等と連携・協力し、異なる対象者テーマのもと、計画的かつ将来を見据えた体験活動事業を実施する。その際、基本的な生活習慣の確立や人間関係形成力など焦点を定め、参加対象者の状況を踏まえ実施する。

実施に当たっては、鹿児島県教育庁高校教育課学校教育生徒指導班と連携して、不登校及び不登校傾向にある小・中学生を対象に、自然体験活動の楽しさや人とのふれあいの大切さを知ることを目的に、「おおすみくん家に遊びに来ませんか！！」を4回実施する。

(4) グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進

今後、経済社会システムのグローバル化が引き続き進展すると考えられることを踏まえ、国内外の関係機関・団体等と連携して、青少年の段階から世界の動向に関心を持ち、グローバル人材として活躍できる機会を得られるように、海外の青少年及び青少年指導者との交流や国際交流等を令和7年度に実施する教育事業と連動しながら実施する。その際、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター（カピックセンター）と連携を図っていく。

2 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供すること等を通じて青少年の健全な育成を実現するためには、資質・能力の高い指導者を戦略的かつ計画的に養成することが必要不可欠である。青少年教育のナショナルセンターとしての機能の向上を展開するため、青少年教育指導者等を対象とする体系的な養成・研修事業を実施し、その資質・能力を向上させる。

(1) ボランティア養成・研修の推進

教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担う法人ボランティアを育成し、青少年教育におけるボランティア活動の一層の推進を図るとともに、ボランティア養成共通カリキュラムに準拠した「ボランティア養成研修」を実施する。

また、ボランティアの活動機会の増加を図り、学びと活動が循環しながら成長できるよう、ボランティア育成ビジョンの更新や自主企画事業の推進、他施設のボランティアとの交流などが活発化するように支援する。

(2) 自然体験活動指導者養成事業の開催及び参加

令和7年度は九州・沖縄ブロックの輪番で「自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成事業」を開催する。

また、青少年教育指導者等の資質・能力の一層の向上を図るため、指導者育成の観点から九州地区内の国立青少年施設で開催される自然体験活動指導者（リーダー）養成事業及び自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成事業に可能な限り参加する。

Ⅳ 研修支援の充実と利用拡大

Ⅰ 研修利用の充実

宿泊室稼働率50%及び青少年の利用実績を確保するために、「稼働率向上（利用者増加）のための数値目標の設定及び行動計画」を策定し、着実な実施に努めるとともに、利用状況の分析や利用団体に対するアンケート調査を行い、利用促進に向けた方策を検討・実施する。

期 間		年 間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
利用者数 (人)	合 計	36,200	12,900	11,200	12,100	—
	日帰り	18,600	5,500	3,900	9,200	—
	宿 泊	17,600	7,400	7,300	2,900	—
宿泊室稼働率 (%)		50.0	50.0	55.0	45.0	—

2 活動プログラム等における教育的な指導及び支援の充実と検証

利用団体の特性や目的を把握した上で多様なプログラム提案を行うとともに、適切な指導・助言を行う。

また、引率者を対象としたアンケート（施設利用に関するアンケート調査）によって、教育的指導及び支援の充実に努める。

さらに、活動プログラム等の方法・効果が明確になるよう教材や指導資料等の工夫・見直しを行うとともに、事前打合わせ等でのICT機器の活用にも努める。

3 学校との連携・協働による体験活動プログラムの充実

学習指導要領に基づき、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携を強化し、「主体的・対話的で深い学び」が可能となる活動プログラムを各年齢期に応じて提供する。

- (1) 幼児期：自然を活用した幼児期の運動プログラムを活用した場づくり
- (2) 小・中学校：集団宿泊行事等における教科等と関連付けた体験活動プログラムの提供
- (3) 高等学校：「地域探究プログラム」のオリエンテーション合宿の実施

4 利用状況の検証と広報の充実

四半期ごとに利用者数及び施設利用に関するアンケート調査結果に対する増減の要因を検証する。

また、学校、青少年団体、地元関係者等に対する広報は効率的かつ効果的な計画を作成し、確実に実行するとともに、年度末に研修支援等の体制に関する検証を行う。

- (1) 施設業務運営委員会などで幼稚園・子ども園・保育園、小・中学校、高等学校、大学、スポーツ少年団等の年間広報計画（直接訪問計画を含む）を立て、全職員で広報活動に取り組む。
- (2) ホームページの計画的更新に努めるとともに、SNS（Instagram等）の媒体を有効活用して、積極的に事業等の情報を発信する。
- (3) 鹿児島県教育庁社会教育課、鹿児島県政記者クラブ（青潮会）及び鹿屋市や垂水市の広報主管課等との連携を図り、プレスリリースを行うとともに、地元新聞社、テレビ局、ラジオ局のマスメディアを積極的に活用し、広報の充実に図る。
- (4) ファミリー会員制度登録者を対象にして、優先的に事業案内を行い、会員相互の交流及び当施設の利用促進を図る。
- (5) 道の駅、フェリー乗り場等の様々な集客施設や新規の広報箇所（雑誌、地方公共団体等）に協力依頼を行うなど、広報紙配布及び情報提供など効率的な広報に努める。

V 安全安心な教育環境の確保

1 施設における安全管理研修の計画・実施及び安全対策マニュアルの整備

施設における安全研修の年間計画を策定し、全ての事業系職員が安全対策を図った上で指導ができるように研修を行う。

また、「危機管理関係マニュアル点検方針」及び安全点検マニュアル等の点検、見直しを常時行う。

特に、海浜活動をはじめ野外活動時に不測の事態が発生した時は、全職員が迅速かつ適切に対応ができるよう「安全対策マニュアル」に基づいて行動する。

2 安全安心な教育環境づくり

感染症等への対策の徹底を図るとともに、教材教具・活動備品、活動場所等の日常的な点検・整備を通して、安全安心な教育環境を確保する。

また、鹿児島県教育庁大隅教育事務所及び鹿児島海上保安部喜入海上保安署等関係機関と連携し、海浜活動に関する安全対策について協議することを目的として、「海浜活動安全対策協議会」を開催する。

3 緊急連絡網の整備

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、全職員及び本部・関係部署並びに業者等への緊急連絡網を整備するとともに、随時見直し更新を図る。

4 安全管理・衛生管理の徹底

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、日頃から危機的状況を想定し、適切な対応ができるよう体系を構築する。

- (1) 宿泊室やトイレ等の生活環境エリアの不良箇所等の早期発見及び早期修繕を行う。
- (2) 安全管理・衛生管理に関する情報を全職員へ周知徹底する。
- (3) 地形、気象、動植物等の危険要因に関する情報を利用者へ提供するとともに、野外・海浜活動記録簿を活用し、安全対策の指導・助言を徹底する。
- (4) 活動用具や火気等の取扱いの指導を徹底する。
- (5) 感染症及び食中毒の予防の徹底を図るとともに、発生時の迅速な対応を行う。
- (6) 喫煙者の空間分煙を徹底する。
- (7) 定期健康診断及びその他各種検診等を行い、職員の健康増進に努めるとともに、身体及び心の健康に関する相談等の充実を図るなど、職員の健康管理を充実する。
- (8) 人権擁護、セクハラ防止等を徹底するとともに、相談制度を充実する。
- (9) 盗難・盗撮、事故防止等のためのセキュリティ対策を再確認するとともに整備する。
- (10) 情報セキュリティの整備を図る。

5 安全管理・危機管理に関する研修・訓練の実施

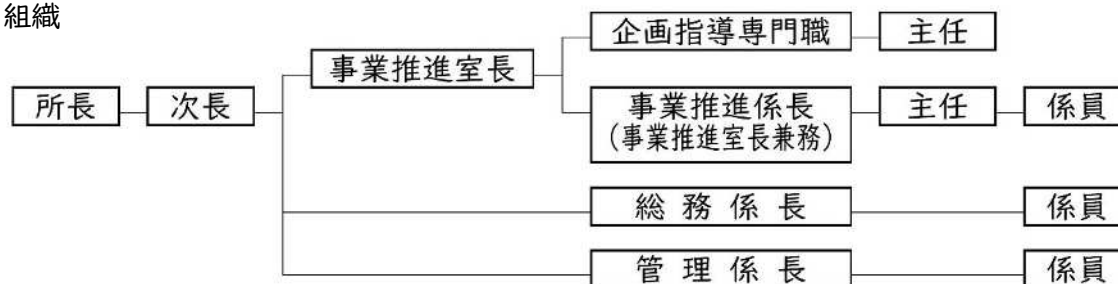
不測の事態等に関して、職員が迅速かつ適切な対応ができるよう、所内研修及び専門訓練等を確実に実施し、技術・熟練度の向上を図る。

6 緊急時の対応（火災・地震・自然災害等）

火災や地震、自然災害等の緊急時における職員の対応として、利用者の安全で速やかな避難、負傷者の適切な救助、汚染拡散防止（二次被害の防止）等に関する知識や技能を身に付けるとともに、防災に関する意識の高揚を図ることを目的に、避難訓練を年2回（火災・地震）、非常時に備え、職員の非常時参集訓練を実施する。

VI 業務運営に関する事項

1 組織



2 効率的・効果的な組織の運営

(1) 地域と連携した施設の管理運営

施設業務運営委員会の中に、NPO・企業・各種団体等の代表者が、実際に事業の企画・実施や施設の管理運営、施設の利用促進に参画する専門部会を設置し、効率的・効果的な施設の管理運営に努める。

また、地元企業等との連携も視野に入れ、特に青少年教育活動に賛同していただける企業と連携・協力しながら、教育事業を推進していくことも考慮していく。

(2) 計画的な人事評価

個々の能力を最大限に発揮させ、組織の活性化を図り効率的な事業運営に資するため、業績評価を年2回、能力評価を年1回実施する。

3 効率的な予算執行

管理運営経費縮減のため、既定経費の見直しを行うとともに業務の合理化により、対前年比5%以上の縮減を図る。

(1) 光熱水料の節減・節約

冷暖房の細かな運転管理、冷暖房吹出温度・期間の管理及び活動プログラムの調整により、効率的な活動計画を行い、光熱水料削減に努める。

また、利用者に対しても、打合せ時に節減協力の要請を積極的に行う。

(2) 適切な外部委託

外部委託業務の簡素化・効率化を検討し仕様内容の見直し等進めながら外部委託を行うとともに、業務が仕様書どおりに履行されているか日々の状況確認を徹底する。

また、経費の必要性を検討し、職員でその業務の実施をする等、経費削減への対応に努める。

4 自己収入の確保

積極的にクラウドファンディングやネーミングライツなどの外部資金及び自己収入を確保して、事業運営への活用を図る。

(1) 協賛事業の積極的な推進

企業等への当施設のもつ機能の理解促進を図り、外部資金による事業等の実施に努める。

(2) 寄附金の受入の推進

青少年教育活動に理解を得るための広報活動を充実させ、ホームページへの掲載等による企業等からの寄附金の募集を積極的に行い、受入の推進を図り、寄附金の増加に努める。

(3) 受益者負担による収入の確保

自己収入の拡大を図るため、新規の受益者負担及び関連の制度見直しを行う。

(4) 土地・建物等の貸付及び清涼飲料水（自動販売機）の提供委託業務の工夫・改善

土地・建物等の貸付については、利用者の利便性を損なわないよう売店等とする。

また、清涼飲料等（自動販売機）の提供委託業務については、売上を考慮した商品の入替等を行い、手数料収入の増を図る。

(5) 受託実習生の積極的な受入

受託実習生について、受入体制を整備し、連携機関との連携を強化し、受入増を図る。

(6) 受託事業、協賛事業の積極的な事業推進

当施設のもつ機能の理解促進を図り、積極的に外部資金の確保に努める。

(7) ふるさと納税の活用

ふるさと納税制度を活用し、寄付の呼びかけや魅力的な返礼品の提供を通じて、自己収入の増加を図る。

また、広報活動を強化し、寄付者の増加に努める。

5 計画的な施設・設備の改修整備の実施

利用者が快適かつ安心して生活に過ごして、体験活動も効果的に実施されるように施設・設備の改修整備を進める。

また、既存施設・設備について、利用者アンケート、利用状況及び運営委員会等により利用者の意見やニーズの把握に努め、効率的な研修活動が図られるよう必要な改修整備を進める。特に、自然体験活動エリア内において、利用者の安全性を確保するため、緊急性・必要性を勘案し優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備等の改修整備を進める。

さらに、利用者の安全性及び利便性を優先するために、補修箇所を速やかに発見し対応できるよう職員による定期的な巡回の回数、範囲、方法や点検項目等の見直しを図る。

(1) 防災の観点に立った整備

安全な利用者の活動・生活環境の確保のため、老朽化している箇所の改修整備計画を立て、緊急性・必要性を勘案して優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備（インラインスケート場、マウンテンバイクコース等）の改修整備を進める。

(2) 研修環境の確保の観点に立った整備

研修環境の改善として、当施設のキャッチフレーズである「錦江湾・黄金の夕日 大隅」としての眺望を確保するよう環境整備を行う。

(3) 利用者の意見等を反映した整備

教育事業参加者、研修支援における利用者の意見や利用団体活動の多様化に対応するため、施設（管理研修棟・学習棟・宿泊棟・キャンプ場・新城海の家・太陽の家・いろり庵等）における生活環境の整備を進める。

(4) 高齢者及び身体の不自由な方に配慮した改修整備

高齢者及び身体の不自由な方が安心して快適な活動ができるように施設・設備の点検及び改修整備を進める。

令和7年度 国立大隅青少年自然の家 教育事業等計画

1 青少年教育に関するモデル的事業

地域探究プログラム(1ーウ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
1	全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿	地域の魅力や抱えている課題を自ら発見し探究する活動を通して、ものごとを深く追究する姿勢や主体的に取り組む態度を養い、実践活動に必要な知識・考え方を習得するとともに、実際の行動へと踏み出し地域に貢献する意欲を高める。	7/19(土)～21(月・祝) 【2泊3日】	県内高校1・2年生	20	鹿屋市内関係団体

2 社会の要請に応える体験活動等事業

日本文化の体験(自然体験や読書活動、書道)などに親しむ機会と場を提供する事業及び関係機関・団体等と連携する事業(2ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
2	かごしま親子わくわく体験DAY ～秋の学びと発見フェス～	文部科学省「子供の体験活動推進宣言」(令和4年)の実現に向けて、官民が連携し、コロナ禍で奪われた子供の体験の機会を提供するとともに、家族や一般の方々へ体験活動の重要性を啓発する。	11/9(日)	一般	4,000	県内社会教育施設及び民間企業

体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業(2ーイ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
3ー①	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 スポーツキャンプ【バレーボール】	青少年の体力・運動能力を踏まえ、競技種目ごとに専門的なトレーニング法による指導を受け、参加者のスポーツ技術やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	6/7(土)～8(日) 【1泊2日】	中学生部員及びその指導者	90	鹿屋体育大学
3ー②	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 スポーツキャンプ【野球】	青少年の体力・運動能力を踏まえ、競技種目ごとに専門的なトレーニング法による指導を受け、参加者のスポーツ技術やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7/19(土)～20(日) 【1泊2日】	中学生部員及びその指導者	90	鹿屋体育大学
3ー③	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 スポーツキャンプ【バスケットボール】	青少年の体力・運動能力を踏まえ、競技種目ごとに専門的なトレーニング法による指導を受け、参加者のスポーツ技術やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7/26(土)～27(日) 【1泊2日】	中学生部員及びその指導者	90	鹿屋体育大学
4	公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ活動等普及奨励助成事業 登山キャンプ	登山を通して自然と関わることの素晴らしさや、スポーツとしての登山の楽しさを体験する。山岳での自然体験活動から、自然に生かされていることの体験・理解や、他者により良い関係の構築を学び、子どもたちの生きる力や健やかな心を育む。	11/22(土)～24(月) 【2泊3日】	小学5年生～中学生	20	鹿屋体育大学 霧島山岳会

防災・減災教育事業(2ーウ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
5	SDGs親子ぼうさいフェスティバル	防災や減災に関する活動や、被災時の生活体験、災害時の応急対策活動の体験、弱者の視点からの災害対応、多様性への配慮、自助・共助・公助による生きる力を学ぶ機会を提供する。また、子どもたちに持続可能な開発のための教育(ESD)を目指す。	11/29(土)	一般	500	県内社会教育施設及び民間企業

3 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

課題を抱える青少年を支援する体験活動事業(3ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
6	おおすみくん家に遊びに来ませんか!! ①～④	不登校及び不登校傾向のある小・中学生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	①5/24(土) ②7/5(土) ③8/30(土) ④11/15(土)	不登校及び不登校傾向のある小・中学生	各10	鹿児島県教育庁 高校教育課 学校教育生徒指導班

4 グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
—	該当事業なし					

5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

青少年教育指導者等の養成・研修事業

自然体験活動指導者（NEAL）養成事業（5ーアa）

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
7	NEALインストラクター養成事業	青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の資質・能力の向上を図る。	10/11（土）～13（月祝） 【2泊3日】	高校生以上	30	国立阿蘇青少年交流の家

その他（5ーアb）

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
8	宿泊学習指導者研修会	令和7年度集団宿泊学習へ引率する教職員に対して、主な活動プログラムを体験してもらい、宿泊学習の一助とする。	8/27（水）～28（木） 【1泊2日】	大隅地区教職員	30	大隅地区内教育委員会

ボランティア養成・研修事業（5ーウa）

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
9	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	5/31（土）～6/1（日） 【1泊2日】	高校生以上	41	鹿児島大学 鹿屋体育大学 肝属地区消防組合

※ 独自事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
10	宿泊学習等利用者説明会①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実する。	①4/11（金） ②4/18（金） ③8/28（木）	学校・青少年団体等の引率者	各30	大隅地区内教育委員会
11	子どもゆめ基金募集説明会	子どもゆめ基金の令和8年度申請に関する説明会を実施し、鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させて子供の健全な育成の推進を図る。	9/7（日） →R8・一次募集説明 3/1（日） →R8・二次募集説明	申請予定団体	50	

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

一般財団法人九州電気保安協会 鹿屋事業所

医療法人青仁会 池田病院

医療法人和敬会 平和台病院

大隅鹿屋病院

鹿屋衛生管理センター株式会社

株式会社ウォーターテック 西日本支店

株式会社園幸

株式会社南九

株式会社カナザワ

株式会社きたやま

株式会社宮生企画

株式会社コシマ工務店

株式会社坂元電気工事

株式会社桜島

株式会社新生社印刷

株式会社総合印刷

株式会社レモンガスかごしま 鹿屋支店

小鹿酒造株式会社

社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

中外電工株式会社 鹿屋営業所

有限会社洩上事務器

有限会社松久保電機

有限会社森伊蔵酒造

有限会社泰夫水産

有限会社熊南空調システム

ワタキューセイモア株式会社 南九州営業所